①林業専門支援員

事業の目的

森林は、木材を生み出すだけでなく、水を蓄え、土砂災害を防ぎ、生きもののすみかになるなど、町民の暮らしを支える多面的な役割を持っています。森林所有者が適切な整備を続け、町有林も将来を見通して管理できるよう、専門的な知識を持つ支援員を配置しています。現地の状況と森林情報を結び付け、整備の優先順位や森林経営計画の作成を支援することで、森林を次世代へ引き継ぐ体制を整えます。

主な内容

・私有林の森林整備を推進するため、森林所有者等への働きかけを行います。
・森林経営計画の作成を支援するとともに、森林整備に関する助言を行います。
・町有林の現況を確認し、必要な施業や管理方法を検討します。
・林地台帳などの森林情報を整理し、森林の状態を把握しやすくします。
・ナラ枯れ対策として、天然林のミズナラの更新伐に向けた計画を策定します。

令和７年度実績

林業専門支援員による現場での活動と森林情報管理システムの保守を通じて、町有林・私有林の適切な管理を支援しました。森林の巡視・現地調査、町職員への技術的な助言、森林整備意向調査に関する相談対応を行うとともに、林地台帳などの森林情報を継続して管理しました。また、ナラ枯れ対策として、天然林のミズナラの更新伐に向けた計画を策定しました。

実績のポイント

・実施内容：町職員への助言、森林の巡視・現地調査、森林整備意向調査の相談、林地台帳の管理、ナラ枯れ対策としての天然林のミズナラの更新伐計画の策定

取組の様子



森林整備の現地検査



更新伐ミズナラ調査

②森高校向けインターンシップ

事業の目的

森林を育て、木を伐採し、製材・加工を経て暮らしの中で活用するまでの一連の流れを、高校生が地域の森林や木材産業の現場で学ぶ機会をつくります。現場での体験を通じて、木の性質や森林の役割、地域の林業・木材産業への理解を深め、将来の進路としてこれらの産業を考えるきっかけとし、地域を支える人材の育成につなげます。

主な内容

・町有林で、森林の手入れや間伐などを見学・体験し、森林を育てる仕事への理解を深めます。
・製材工場で、丸太が製材品になるまでの工程を見学し、木材の加工や利用について学びます。
・ニチレイフーズやニッセイ緑の財団との連携を通じて、森林や木材を活用した取組を社会で実践する「社会実装」を体験します。

令和 7 年度実績

森高校の住生活デザインの授業などを通じて、年間 27 回の学習機会を設けました。町有林での森林の手入れや間伐の見学・体験、製材工場での工程学習に加え、伐採から製材、乾燥、ノベルティ制作までの実習を行いました。また、ニチレイフーズやニッセイ緑の財団と連携し、森林や木材を活用した取組を社会で実践する体験を通じて、地域の林業・木材産業への理解を深めました。

実績のポイント

・学習機会：年間 27 回
・実習内容：伐採、製材、乾燥、ノベルティ制作までの工程を体験
・学習テーマ：森林、製材、駒ヶ岳木炭、木育を一連の流れで学習
・企業・団体との連携：ニチレイフーズやニッセイ緑の財団と連携し、森林や木材を活用した取組の社会実装を体験
・関連成果物：北海道立森高等学校 2 年次授業「住生活デザイン」の活動記録冊子『森の学び 2025』を制作（2026 年 3 月 9 日発行）
・冊子の内容：憩いの場づくり、間伐・製材工場見学、木育キット制作、ノベルティ開発、自分専用家具づくりなどを記録

取組の様子


木製デッキ制作体験


製材工場の見学

③connect∞もりによる学生の滞在型施設としての活用支援

事業の目的

北の森づくり専門学院や大学生が森町に一定期間滞在し、森林や地域資源を使った学び・調査・ものづくりに取り組めるよう、connect∞もりを活動拠点として整備します。滞在中に地域の人や事業者と直接関わることで、学校では得られない現場の知識を身につけてもらいます。学生と町との継続的な関係をつくり、将来の就業や関係人口の創出につなげます。

主な内容

・短期・長期インターンシップや合宿などの滞在を受け入れます。
・滞在中のフィールドワークや地域との交流を支えます。
・テーブル、いす、ベンチなど、活動に必要な家具や什器を整えます。
・施設の維持管理や、滞在に必要な備品・消耗品を整備します。

令和 7 年度実績

令和 7 年度実績として、学生のインターンシップ等による滞在型利用と課外活動の場として、施設整備と活動支援を行いました。北海道芸術デザイン専門学校との連携の一環として、同校の学生が制作した家具を connect∞もりに搬入し、滞在中の環境を整備しました。施設利用実績は利用日数 147 日、利用人数 21 人でした。

実績のポイント

・施設利用実績：利用日数 147 日、利用人数 21 人
・利用校：北の森づくり専門学院、北海道大学、札幌市立大学、北海道文教大学、神戸大学
・連携実績：北海道芸術デザイン専門学校の学生が制作した家具を搬入
・利用内容：学生のインターンシップ等による滞在型利用、課外活動
・整備効果：学生の要望を踏まえて椅子やスツールを制作し、学習や交流に利用しやすい環境を整備

取組の様子


活動拠点の外観


家具の搬入前


家具の搬入後

④森町地域サポート部会による担い手育成支援

事業の目的

林業や木材産業は、森林・製材・加工・建築・デザインなど多くの仕事が関わって成り立っています。高校生や大学生が森町の現場で仕事の流れと地域の暮らしを学び、地域の人から助言を受けられる機会をつくります。実習を一度きりで終わらせず、学校・地域・事業者が協力して若者を受け入れることで、将来の担い手と森町に関わり続ける人を育てます。

主な内容

・森高校の住生活デザイン授業を支援し、生徒がデザイン、建築、製材、家具製作について学ぶ機会をつくります。

・部会委員が地域のメンター（助言者・指導者）となり、高校生、専門学校生、大学生の学びや活動を支援します。

・森林や木材産業を題材にした実習を、森町をフィールドとして行います。

・授業や実習を通じて学生が感じた森町の林業・木材産業の魅力を、若年層に向けて発信します。

令和 7 年度実績

令和 7 年度実績として、高校生・専門学校生・大学生の実践学習を支援しました。森高校の住生活デザイン授業や、専門学校生・大学生の就業体験実習を通じ、参加者は地域材の活用、地域調査、木材加工やものづくりに取り組み、学校・地域・事業者が若者を受け入れる実践例をつくりました。

実績のポイント

・参加実績：4 大学から 8 名

・実施内容：地域材の活用、地域調査、木材加工、ものづくり

取組の様子



学生の間伐体験学習



木材産業の現場体験

⑤次世代に引き継がれる木育推進プロジェクト

事業の目的

木育は、木に触れる体験を通じて、子どもたちが森林や地域の産業、ものを大切に使うことを学ぶ取組です。赤ちゃんから小学校低学年まで、発達段階に応じた体験と授業を整え、家庭や学校で継続して木と関われる環境をつくります。単発の体験にとどめず、授業の記録や教材を次年度へ引き継げる形にすることで、次世代の森町を担う子どもたちの学びにつなげます。

主な内容

・森町で生まれた子どもに、道南スギの出生証明書を贈ります。
・親子で積み木をつくるウッド・ファースト・トイを行います。
・風倒木被害跡地の造林地で、植樹・育林と森林環境教育を行います。
・各小学校の教諭と幼稚園教諭で構成する木育ワーキンググループ（木育 WG）で、幼稚園から小学校 2 年生までの発達段階に応じた木育プログラムを作成し、教材や授業内容を整えます。

令和 7 年度実績

乳幼児期から小学校低学年までを対象に、木に触れ、森林や地域の産業を学ぶ機会をつくりました。出生証明書や木のおもちゃの配布、植樹活動、学校での試験授業を組み合わせ、木育を継続的な学びにつなげる取組を進めました。また、各小学校の教諭と幼稚園教諭で構成する木育 WG を 3 回開催し、幼稚園から小学校 2 年生までを対象とした木育プログラムを作成しました。

実績のポイント

・配布実績：道南スギの出生証明書 12 人分、ウッド・ファースト・トイ 10 個
・試験授業：鷲ノ木小学校 9 人、森小学校 89 人、合計 98 人
・授業内容：木育体験を 4 種類実施（さわりごこちアート、もりのがっき、えんぴつづくり、端材アート）

取組の様子



道南スギの出生証明書


ウッド・ファースト・トイ積み木づくり


木材の違いを学ぶ鉛筆づくり

⑥若年層担い手育成施設による関係・定住人口創出支援

事業の目的

若年層が森町で学び、地域の人と交流し、地域材を使った商品や仕事を試せる拠点を整えます。iroMori を中心に、大学・専門学校・地域おこし協力隊・町内事業者をつなぎ、木育やものづくり、木材の新たな用途の試作を実践します。都市部の学生や若者が森町に関わる入口を増やし、将来の就業・起業・定住や関係人口の創出につなげます。

主な内容

・大学や専門学校と連携し、インターンシップや実践実習を受け入れます。
・地域材を使った新商品や木育キットの開発を進めます。
・地元材を活用した樽など、新しい用途の調査や試作を行います。
・町民や団体向けの木育・ものづくり教室を開きます。

令和 7 年度実績

令和 7 年度実績として、iroMori を拠点に、木育研修、ワークショップ、洋酒樽の試作、高校生・専門学校生・大学生の就業体験・実践学習、先進地視察を行いました。地域おこし協力隊の起業に向け、長野県松川町の MMM プロジェクトと（株）やまとわを視察し、地域材を活用した事業の立ち上げ方や運営方法を確認しました。施設利用は利用日数 63 日で、町民 56 人、町外 142 人の合計 198 人が利用し、機材使用・作品制作、見学・相談、イベントなどに活用されました。若者の受入れと地域材の新しい使い方を進め、木材を使った仕事や活動を試す機会を広げました。

実績のポイント

・活動人員：地域おこし協力隊の委託型 4 名
・木育活動：31 回
・iroMori 施設利用実績：利用日数 63 日
・利用者別実績：町民 56 人、町外 142 人、合計 198 人
・iroMori の実績：ワークショップ 3 件、視察対応 2 件
・視察内容：VUILD 株式会社との連携による旧松川東小学校の ShopBot 等、「生きる」と「つくる」をつなぐ学びの場、（株）やまとわの「農と森・木工・暮らし・森」の 4 事業部による家具・木製品の製造販売や森林ビジョンづくりを確認

取組の様子


森町木材を紹介する展示会


地元小学生を対象の木育体験


地域材の新しい用途を学ぶ

⑦森林資源を活用したカーボンクレジット創出支援

事業の目的

森林は成長する過程で二酸化炭素を吸収し、地球温暖化対策に役立つ一方、適切な間伐や更新などの管理が必要です。森林の樹種や林齢、立木の状況を調査し、吸収量をデータで示すことで、森林管理の効果を見える化します。J-クレジット制度の認証・発行と企業との連携を通じて、森林整備を継続するための財源と脱炭素の取組を両立させます。

主な内容

・調査区画で、樹種、林齢、立木数、幹の太さ、樹高を測ります。
・調査結果をもとに、森林が吸収する二酸化炭素量を算定します。
・有識者の確認を受け、国への J-クレジット認証・発行申請を進めます。
・森林所有者を訪問し、森林整備の補助制度や今後の意向を確認します。

令和 7 年度実績

令和 7 年度実績として、ENEOS 株式会社と日本生命保険相互会社の 2 社との連携協定に基づき、森林資源解析・モニタリングと森林所有者への意向確認を進めました。町と協定先が役割を分担し、森林が吸収する二酸化炭素量をクレジットとして見える化するための基礎情報を整理しました。

実績のポイント

・連携実績：ENEOS 株式会社、日本生命保険相互会社の 2 社
・調査対象：約 4,300ha の森林を対象に森林資源解析・モニタリングを実施
・実施内容：森林所有者への意向確認、J-クレジット申請に必要な基礎情報の整理

取組の様子



森林を活用した脱炭素に向けた連携協定


森林に関する意向の聞き取り

⑧木造公共施設森町モデル

事業の目的

森町産材を公共施設などの建築に活用するため、地域で調達できる木材を使い、地元の事業者が加工・施工しやすい木造建築の仕組みづくりを進めます。専門家や関係事業者との協議を通じて、柱の少ない広い空間をつくる「森町トラス」や耐力壁の研究・検証に取り組み、安全性、施工性、コストなどの面から、森町の実情に合った木造公共施設の整備につなげます。

主な内容

・建築、構造、製材、加工、試験研究などの専門家や関係事業者による森町モデル推進協議会を開催します。
・これまで開発してきた平行弦トラスや張弦梁を踏まえ、森町産材を活用した耐力壁の仕様や構造性能を検討します。
・耐力壁の要素実験や実大強度実験を行い、公共建築への活用に向けた課題を確認します。
・公共建築への町産材の活用について、設計・加工・施工・供給などの課題や今後の方向性を協議します。

令和 7 年度実績

森町モデル推進協議会を 5 回開催し、森町産材を活用した耐力壁の検討を進めました。耐力壁の仕様検討や要素実験、実大強度実験を通じて、構造性能や施工上の課題を確認するとともに、公共建築物への町産材活用に関する課題や今後の方向性を協議しました。また、令和 8 年度の研究成果の取りまとめに向けた方針を確認しました。

実績のポイント

・協議会実績：森町モデル推進協議会を 5 回開催
・実施内容：森町産材を活用した耐力壁の仕様検討、要素実験、実大強度実験
・協議内容：公共建築物への町産材活用に関する課題と今後の方向性
・次年度への展開：令和 8 年度の研究成果の取りまとめに向けた方針を確認

取組の様子


実大耐力壁試験体


実大壁実験

⑨森町私有林整備事業

事業の目的

私有林は、水を蓄え、災害を防ぎ、二酸化炭素を吸収するなど、地域全体に恩恵をもたらしています。こうした森林の機能を維持するには、所有者が自らの森林資源の状況や整備の必要性を理解し、継続して手入れを行うことが大切です。一方、森林整備には費用がかかるため、所有者の負担だけでは整備が進みにくい場合があります。町が国の補助制度と連携した支援を行い、所有者の理解促進と費用負担の軽減を図ることで、間伐や保育などの森林整備を進め、森林の公益的な機能と地域の林業基盤を守ります。

主な内容

・森林経営計画に基づく除伐、保育間伐、間伐を支援します。
・枝打ち、鳥獣害防止施設などの整備を支援します。
・森林作業道の整備は、除伐・間伐などと一体的に行う場合を対象とします。
・道の標準単価を基に、標準事業費の 68%を基本として助成します。
・冬季に実施する場合は除雪費を加算し、整備箇所の転用・皆伐には制限を設けます。

令和 7 年度実績

令和 7 年度実績として、国の補助制度と町の支援を組み合わせ、森林所有者が整備に取り組みやすい助成制度を運用しました。除伐、保育間伐、間伐、枝打ちなどを対象とし、冬季の除雪費加算も設け、年間を通じた森林整備につなげました。

実績のポイント

・整備実績：保育間伐 1.46ha、枝打ち 1.46ha
・支援内容：除伐、保育間伐、間伐、枝打ち、鳥獣害防止施設など
・助成基準：標準事業費の 68%を基本に支援
・追加支援：冬季の除雪費を加算し、年間を通じた整備を支援

取組の様子


森林の整備状況を確認


森林の現況を調査


計画的な森林管理

⑩駒ヶ岳木炭を活用した森林環境教育

事業の目的

地域の森林資源を活用した駒ヶ岳木炭を題材に、地域の産業とのつながりを学ぶ機会をつくります。森町の木炭づくりの歴史や製造方法、身近な活用方法を学び、実際に木炭に触れる体験を通じて、森林資源を有効に活用する大切さや地域の木炭文化への理解を深めます。

主な内容

・森町林業グループと連携し、小学生を対象とした駒ヶ岳木炭教室を行います。
・森町の木炭づくりの歴史や、木炭の作り方・活用方法を学びます。
・実際に木炭に触れ、消臭効果など、暮らしの中で役立つ木炭の特徴を学びます。
・木炭を使った消臭剤づくりを通じて、森林資源の身近な活用を体験します。

令和 7 年度実績

令和 7 年 12 月 19 日に、鷲ノ木小学校の 3・4 年生 8 名を対象に、駒ヶ岳木炭教室を実施しました。森町林業グループが、森町の木炭づくりの歴史を交えながら、木炭の作り方や活用方法を説明しました。児童は実際に木炭に触れ、消臭効果について学ぶとともに、2 人 1 組で消臭剤づくりを体験しました。

実績のポイント

・実施日：令和 7 年 12 月 19 日（金）
・実施校・対象：鷲ノ木小学校 3・4 年生、計 8 名
・委託先：森町林業グループ
・学習内容：森町の木炭づくりの歴史、木炭の製造方法・活用方法、消臭効果
・体験内容：木炭に触れる体験、2 人 1 組での消臭剤づくり

取組の様子



森林を活用した脱炭素に向けた連携協定



森林に関する意向の聞き取り